

【全身の鏡、口腔】  
口腔のいろいろな問題は、体の他部位の問題の兆候であることが多い。例えば、エイズや骨粗鬆症である。

口腔病変や種々の口腔状態の変化は、HIV（ヒト免疫不全ウイルス）感染の最初の兆候であり、感染の進行段階を決めるためや、エイズの進行の経過観察をするために使われることがある。

閉経後研究でも、下顎骨の骨量の減少が、他の骨格に先行して見られることが示唆されている。

【診断の指標、唾液】  
唾液検査は非傷害的であるという利点がある上、血液や尿と同様、全身の健康測定のために用いることもできる。

例えば、①アルコール、ニコチン、コカイン、アヘンなどや多くの薬物、ホルモンや環境毒性も測定できる②HIV、肝炎ウイルスAや同Bなどの抗体とともに、胃かいよ

## 医事旬刊

### 口腔と健康の関係探究

うの原因であるピロリ菌が血流に流入しても無害の抗体を検知するのに用いることができる③糖尿病、パーキンソン病、アルコール性肝硬変や多くの感染症などの疾患の診断や経過観察のための血液検査の代わりとなりうる——などである。

【感染源としての口腔】  
人の口腔内細菌の多くは非病原性であるが、口に生じると考えられている何百万個にも及ぶ細菌

が血流に侵入し病変の表面に付着した時に生じると考えられている。口腔組織を障害する

患者——などである。【危険因子になりうる口腔感染】

近年の研究で、口腔感症(歯周病)と糖尿病、歯周病治療がどのよう

患者を引き起こすという十分な証明がされてこなかった。この因果関係が偶然なのか、現在いろいろ研究されている。

歯周病は糖尿病の六番目の合併症と言われている。なぜなら糖尿病患者は歯周病にも罹患している。研究者はこの証明が確立されているわけではない。

いくつかの研究では、低体重出産母体は正常体重分娩母体に比べ、比較的歯肉疾患が重症である。実際に歯肉感染が出生体重に影響しているかを確認するためにも、一層の研究が必要だ。

【口腔の健康とQOL】  
最近、顎顔面口腔の健康状態や疾患が、全身の健康やQOL(クオリティ・オブ・ライフ)生活の質)に影響を与えているとの報告が増加していることに呼応して、①咬合状態に起因する他臓器の異常②摂食・嚥下障害、歯周病と糖尿病・骨粗鬆症③口臭、味覚障害、口腔乾燥症、歯ぎしり、いびきと睡眠時無呼吸症候群④口腔機能と脳機能——の関係などが調査・研究されている。

の寄生場所であり、ある環境の元で、それらのい

くつかが虫歯や歯肉病変の原因となる。

口腔細菌は、口腔の正常な防御機構が破綻すると、血流に侵入する。これは歯科治療、歯ブラシや糸牙による歯口清掃の結果としても生じる。

正常な免疫機能を持つ人では、口腔細菌



愛知県歯科医師会  
さかい たけし  
坂井 剛 専務理事

東京歯科大卒。  
日本歯科医師会地域保健委員会前委員長。同歯科医師会8020推進財団設立検討委員。60歳。